

2023年度 MD研究者育成プログラム参加学生の教育研究活動支援

番号	氏名	参加学会名	出張場所	出張期間
1	O・Y	東京国際フォーラム他 MD研究者育成プログラム 全国リトリート	東京	2023/4/21-2023/4/23
2	K・K	東京国際フォーラム他 MD研究者育成プログラム 全国リトリート	東京	2023/4/21-2023/4/23
3	M・K	東京国際フォーラム他 MD研究者育成プログラム 全国リトリート	東京	2023/4/21-2023/4/23
4	K・S	東京国際フォーラム他 MD研究者育成プログラム 全国リトリート	東京	2023/4/22-2023/4/23
5	N・I	東京国際フォーラム他 MD研究者育成プログラム 全国リトリート	東京	2023/4/22-2023/4/23
6	T・H	福岡アイランドシティフォーラム 第24回 免疫サマースクール	福岡	2023/8/21-2023/8/24
7	T・Y	都市センターホテル Human Genetics Asia 2023	東京	2023/10/12/-2023/10/13
8	N・M	熊本県医師会館 西日本医学生学術フォーラム	熊本	2023/12/2-2023/12/2
9	A・R	熊本県医師会館 西日本医学生学術フォーラム	熊本	2023/12/2-2023/12/3
10	K・K	熊本県医師会館 西日本医学生学術フォーラム	熊本	2023/12/2-2023/12/3
11	T・H	熊本県医師会館 西日本医学生学術フォーラム	熊本	2023/12/2-2023/12/3
12	N・I	熊本県医師会館 西日本医学生学術フォーラム	熊本	2023/12/2-2023/12/3
13	N・I	名古屋市立大学桜山キャンパス 第17回神経発生討論会・第20回成体脳のニューロン新生懇談会(合同大会)	愛知	2024/3/8-2024/3/9

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3年

氏名：O・Y

目的

現在、私は大阪大学医学系研究科 法医学教室に所属し、死後画像を用いた死因究明について研究を行っている。今回参加した基礎医学研究者養成イニシアチブ全国リトリートは、全国の基礎研究を行っている学生と交流できる場である。私自身は今回、演題発表こそしないが、他の学生研究者のポスター発表や口頭発表を聴講することで、自分が近い将来志すべき研究者像を確認することのできる絶好の機会になると考える。また、自身が目指すAIを用いた画像解析についての研究を行っている学生と交流し、今後の研究の大きな糧となることを目的とする。

活動期間

2023年4月22日～2023年4月23日

概要

東京国際フォーラムで行われた第31回日本医学会総会、及びアキバプラザ、東京大学伊藤国際学術研究センターで行われた基礎医学研究者養成イニシアチブ全国リトリートに参加した。表1.に主な行程と参加したプログラムをまとめた。

表1. 参加したプログラム

1日目 @医学会総会	学生企画1：医学部卒業後の多様なキャリアパスの在り方
	U40 委員会企画4：AIは医師を置き換えるか? ～医療AIの未来予想図～
@全国リトリート	学生ポスター発表
2日目 @全国リトリート	口頭発表
	懇親会

内容、成果

4月22日は日本医学会総会に出席し、「医学部卒業後の多様なキャリアパス在り方」「AIは医師を置き換えるか? ~医療AIの未来予想図~」というセッションに参加した。

「医学部卒業後の多様なキャリアパスの在り方」においては医師か研究者、と単純に二分できない多様なキャリアについて考えるきっかけとなった。特に自身が取り組もうと考えている科学的な死因究明の推進という課題については、法医学者としてだけではなく研究者や医系技官としても取り組むことができるため、将来について再度考えるきっかけとなった。講演していただいた先生はいずれも、その時に自分の心が求めることをした結果今がある、といったことを話しておられたので私も自分の興味に忠実に活動をしようと誓った。

また、「AIは医師を置き換えるか? ~医療AIの未来予想図~」では最先端の医療AIについて、そしてそれらの登場を受けて医師の立場は今後どのような変化を遂げるのかについての講演を聴講した。特に印象的であったのは「AIはあくまでツールであり、医師をサポートするもの」「AIは敵ではなく味方」という考え方であった。しかしそれと同時に、解析や診断自体はAIが近い将来人間を超えるため医師にはより一層「人間力」が必要とされる、という考え方方に深く感心した。

夕方には全国リトリートでポスター発表が開催された。「深層学習モデルと生成モデルを用いた2光子顕微鏡画像の高解像度化」という演題で発表されていた学生と交流を図り、AIによる画像解析の難点である「『学習データ』と『答え』のセットが多量に必要である」という課題に対しての取り組み方を学んだ。

本研究では「ぼやけた画像を明瞭化する」ということを目的としていたが、正しい「明瞭化された画像」がどのようなものかが不明であったため、通常の機械学習では扱うことができない。そのためAIによって予測された答えを再度ぼやけさせることで元のぼやけ画像との差異を測る、という手法を用いていた。このように単純なプログラミングのスキルだけでなくデータ解析の技法やモデル構築の手技について学ぶことができた。

また、のべ10人の学生、教員と交流を図り、自身の研究テーマについても議論を交わした。

他にもALSの病態解析やオートファジーなど、様々な分野にわたる発表を聴講し、論理の立て方や伝え方など自分が今後ポスター発表を作成する際の参考となった。

4月23日は口演発表と懇親会が行われた。口頭発表では各学生が自身の研究について発表を行っており、多岐にわたる最先端の研究成果について学べた。「マスク着用推奨解除後のマスク着用率について」という発表においてはGitHubで得たマスクの着用有無を検出する機械学習セットを用いた定点観察を行っていた。背景が雑多である場合マスクの誤検知が起こる、ということだったので「集団の中での『マスクなしの顔』が検知される回数」を指標としてはどうかと考えた。これは「マスクの有無」を検知するAIよりも「顔の有無」

を検知する AI の方がより研究が進んでおり最適化が進んでいる、と考えたためである。質疑応答の時間が終了してしまっていたため、その後の懇親会でこれらの内容を発表者に伝え、議論を交わした。懇親会では他にも前日に交流できなかつた学生と話すこともでき、大変有意義な時間となった。

今後の抱負

この二日間の経験を通じて、自身が近い将来に目指すべき姿を確認できた。また、交流した学生の 1 人から AI 構築の指南書を紹介してもらい、勉強会をはじめとした今後の交流にも繋がった。これらをきっかけとして日々加速していく AI 技術についての学習やそれを用いた解析などをより一層研究し、法医画像診断への応用を行いたいと感じた。

謝辞

今回の活動にあたり、岸本国際交流奨学金により支援をいただいた岸本忠三先生、並びにスタッフの方々に協力していただきました。末筆とはなりますが心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3年

学籍番号***** 氏名 K・K

【活動の期間】

2023年4月22日(土)～2023年4月23日(日)

【概要】

日本医学会総会と連動する形で東京にて二日にわたって行われた全国リトリートに参加しました。

【内容】

東京国際フォーラム及びアキバプラザ、そして東京大学で行われた医学生の研究発表や学生企、そして交流会に参加しました。具体的には以下の通りです。

4月22日(土)

9:30-11:30 医学会総会学生企画 1「医学部卒業後の多様なキャリアパスの在り方」

11:30-13:30 ポスターセッション 1

13:30-15:30 医学会総会学生企画 2「ポストコロナパンデミックの医学教育の可能性」

15:30-17:30 ポスターセッション 2

18:30-19:00 開会式・記念講演

19:00-21:30 ポスターセッション 3(夕食付)

21:30-22:00 記念撮影・撤収

4月23日(日)

9:00-10:30 口頭発表 1

10:45-12:00 口頭発表 2

12:00-13:00 ポスターセッション 4(昼食付)

14:00-15:00 口頭発表 3

15:00-15:15 表彰式・閉会式・記念撮影

【成果】

他大学で医学生によって行われている研究について知ることができたほか、実際にその行っている医学生と食事等を通じて積極的に交流することができました。多大学ではレベルの高い研究が行われていることを実感して自分もこれから頑張らねばならないと大いに刺激を受けたと同時に、実際にそのような成果を出す上で助けになりそうな多くの情報を他の医学生から得ることができました。

また、個人的にはこのような学会にオンラインで参加するのは初めてのことであったため実際にアカデミックな交流がいかにして行われているのかを肌で感じることができてとても良い経験となりました。この先自分が研究を行ってその成果を発表する上でとても良い経験ができたと思います。

【今後の抱負】

これから今回のような医学生主体の研究会の機会があった際には自分もある程度まとめた成果を発表できるよう、基礎配属の期間なども有効に活用して引き続き自分の研究を進めていきたいと強く感じました。

【謝辞】

この度は貴重な機会を与えていただき誠にありがとうございました。この場を借りて岸本先生や佐田先生をはじめ、協力していただいた多くの方々に感謝の言葉を申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3年

学籍番号***** M・K

2023年4月22日・23日にかけて東京で開催された、基礎医学者養成イニシアチブ2023年度全国リトリートに参加しました。活動スケジュールは以下の通りです。

4月22日

9:30～11:30	日本医学会総会学生企画
11:30～13:30	ポスター発表見学・ディスカッション
14:30～17:30	日本医学会総会・講演視聴
18:30～22:00	学生リトリート懇親会

4月23日

9:00～12:00	口頭発表
12:00～14:00	昼セッション(ポスターディスカッションなど)
14:00～15:00	表彰式、閉会式

内容・成果

1日目は、まず東京国際フォーラムにて日本医学会総会に参加しました。学生企画の「医学部卒業後の多様なキャリアパスの在り方」という講演に参加しました。米国の病院・大学に勤務されている先生、大学院理学系研究科で基礎研究に従事されている先生、国境なき医師団などを経て現在は地域医療に従事されている先生、米国でAI関係のベンチャー企業で研究開発をされている先生など、普段の学生生活ではなかなかお会いできない先生方からお話を伺うことができました。臨床研修の後に専門医取得、といった一般的な医学部出身者の進路に限らず、卒業後には多様な可能性があることを学びました。自分の進路を決めていく上で、大変参考になる講演でした。

1日目午後には、同じく全国リトリートに参加している学生のポスター発表を見学しました。私は現在免疫学の研究を行なっていますが、免疫学以外の分野に関する発表も聞くことができました。普段の講義とは異なりほぼ1対1で話を聞き、質問することになりましたが、普段以上に積極的に質問・議論を深めることができたように思います。同世代の学生が研究活動に参加し、その上でポスター発表できるまでに成果をまとめている姿は大きな刺激になりました。

その後、アキバプラザにて開催された全国リトリート懇親会に参加しました。立食形式で料理を楽しみながら、多くの学生と午前中よりもカジュアルに研究や学業、将来について会話することができました。大阪大学に入学する以前の所属先の縁から、以前は話す機

会がなかつた方とも交流することもできました。こうした場でしかできない情報交換や人間関係作りもあるのだということを実感しました。

2日目は、東京大学伊藤国際学術研究センターでの全国リトリート関連イベントに参加しました。午前中には参加学生による口頭発表が行われました。学部生とは思えないほど入念なデータや議論に裏打ちされた発表もあり、今後自分の研究を進めていくための大きなモチベーションを得られました。また、私が興味を持った点について質問をすると、こちらの想定していた以上の回答を頂けたこともあり、私自身の知見を深めるという点でも大変有益な時間だったと感じています。

今後の抱負

今回の全国リトリートを通して、全国の基礎研究に興味を持つ医学科学生と交流を深めるとともに、彼らから研究に対する刺激をもらい、学部生の間に自分が到達したいと思える研究レベルを具体的にイメージすることができました。こうした経験を大阪に持ち帰り、今後の研究に活かしたいと考えています。秋からは基礎講座配属も控えており、より一層研究に励む所存です。

謝辞

今回の行事に参加するにあたっては、岸本国際交流奨学金を創設して下さった岸本忠三先生、MD研究者育成プログラムを運営して下さっている医学科教育センターの先生方など、多くの方々のご支援を賜りました。心より御礼申し上げるとともに、皆様方のご期待に応えられるよう、今後も努力して参ります。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 6 年

学籍番号 : ***** 氏名 : K・S

このたびは岸本国際交流奨学金を支給して頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

おかげをもちまして、2023年4月22-23日に開催された2023年度日本医学総会およびそれに連動するMD研究者育成プログラムの全国リトリートに参加することができました。本来の目的である研究の成果を発表しただけではなく、MD研究者育成プログラムなどで医学研究を行う全国の医学生たちと出会うことができ、また、研究や将来についての意見を交換するなど交流を深めることができました。以下にその活動内容を報告します。

1日目は日本医学会総会でのポスター発表を行いました。ここでは自身の研究を紹介するだけの一方通行ではなく、分野問わず観覧された方々から貴重な質問や助言をたくさんいただきました。これらは私にとっては新鮮なものばかりで、新たな気付きや発想を与えてもらうなど双方向の活動ができました。また、後日メールにて追加の情報をくださった方もおられ、その場限りではなく、今後へと続く新たな繋がりを構築することができました。

夕方からは全国リトリートでのポスターセッションおよび交流会が実施され、全国の医学研究を行う医学生との研究成果の発表や意見交換を行いました。コロナ禍もあり初めての参加でしたので、最終学年にもなってようやく、全国の医学生の研究レベルの高さを目の当たりにすることになりました。自身の立ち位置を再認識するとともに、何より自分も負けではない気持ちにさせられました。また、これまで経験したことのなかった同年代の意欲あるMD研究者育成プログラムの医学生たちの基礎研究に対する熱意に感化されるなど、将来を考える上で非常に大切な時間を共有することができました。

2日目は同じく全国リトリートでのポスター発表に加え、大阪大学を代表しての口頭発表を行うことができました。その準備の際には、自身の研究テーマを整理してまとめ、限られた時間内で得られた知見をいかに効率よく共有できるかに努めました。最終学年になった今、自信をもってその学生生活の集大成となる研究成果を発表することができました。

以上、この2日間で、これまでに得られた私の研究成果を発表するという所期の目的は十分に果たすことができました。加えて、医学研究を行う全国の医学生の発表の聴講・交流を通して意見交換も行い、新たな着想を得る機会にもなりました。さらには、この交流を通じて、医学研究に興味のある学生との今後へと繋がるコネクションを築くことができました。また、個人的には、伊藤国際学術研究センターという場所での発表、分野を問わず大勢の聴衆を前にしての発表は非常にエキサイティングかつ貴重な経験となりました。

これら貴重な経験は、本活動への参加無しには成し得ません。ありがとうございました。この貴重な経験を糧として、将来、必ずや世界すべての人々に貢献できる医師・医学研究者になるべく、より一層精進を重ねたいと思います。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3 年

学籍番号***** 氏名 N・I

2023年4月22日～4月23日にかけて、東京都内にて行われた「基礎医学研究者養成イニシアチブ 2023年度全国リトリート」に参加しました。

【活動のスケジュール】

令和5年4月22日(土)

時間	場所	内容
9:30-11:30	JPタワー	日本医学界総会 学生企画①
11:30-13:30	東京国際フォーラム	基礎医学研究者養成イニシアチブ 学生ポスター発表
14:00-18:00	東京国際フォーラム	日本医学界総会 研究発表を聴講
18:30-21:30	アキバプラザ	基礎医学研究者養成イニシアチブ 講演会・交流会

令和5年4月23日(日)

時間	場所	内容
9:00-12:00	東京大学 伊藤謝恩ホール	基礎医学研究者養成イニシアチブ 学生口頭発表
12:00-14:00		昼食・交流会
14:00-15:00		基礎医学研究者養成イニシアチブ 学生口頭発表
15:00-15:30		閉会式・表彰式

【内容・成果】

日本医学界総会および基礎医学研究者養成イニシアチブ 2023年度全国リトリートに参加しました。日本医学界総会では東京大学医学部6年生の学生企画において、「医学部卒業後の多様なキャリア」という題目で4名の先生のお話を聞くことができ、今後の進路の参考にすることができました。今回講師として来てくださった先生方は、海外で医師として勤務している方や学士編入学で国際保健に携わっている方、医学部卒業後にシステム生物学野道に進まれて理学系研究科の教授になられた方やIT産業で勤務されている方など様々な背景をお持ちの方々でした。

自分自身も学士編入で医学部に来ているので、このように自分の専門や得意分野を活かして独自のキャリアを積まれている先生のお話を伺えたことで非常に勇気づけられ、自分自

身も得意分野を存分に活かして今後のキャリアを考えていきたいと思いました。

学生ポスター発表と口頭発表では、全国の大学からさまざまな学年の医学生が集まり、幅広い分野の研究発表を聞くことができました。学会などで研究発表を聴講する際は、基本的に自分の専門分野についての内容ばかりになってしまふことが多いため、とても良い機会となりました。何より、今回のように自分と同じ学部生という立場で授業や実習と並行して基礎研究に従事している学生の研究について学んだり、交流を深めたりすることで今後の研究のモチベーションが非常に高まり、一層努力を進めていきたいという思いが強まりました。これ以降も、継続して自分の研究室で独自の研究を進めていきたいと思っております。

【今後の抱負】

東京大学・京都大学・名古屋大学に加え、山梨大学や名古屋市立大学、三重大学など幅広い医学生の研究発表を聞くことができ、非常に強い刺激を受けることができました。今後も継続して意欲的に基礎研究に従事していきたいと思っております。

【謝辞】

今回の全国リトリートに参加するにあたり、岸本国際交流奨学金として資金援助をしてくださった岸本忠三先生、並びに今回の活動を全面的にサポートしてくださった佐田遼太先生をはじめとする医学科教育センターのスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

– MD 研究者育成支援事業 –

医学部医学科 3年

***** T・H

■概要

学会名: 第24回 免疫サマースクール 2023 in 福岡

日程: 2023年8月21日~24日

会場: 福岡アイランドシティフォーラム

■目的

免疫学や生命科学に興味のある若者、特に大学生、大学院生、ポストドクタルフェロー、若手臨床医、企業の若手研究者などとともに、著名な免疫学者から講義を受け、積極的にディスカッションすることで、自身の研究の方向性の検討する機会や今後のキャリアについて考える機会を得る。

■スケジュール

8月21日（月）	8月22日（火）	8月23日（水）	8月24日（木）
13:00 受付	8:55 アナウンス	8:55 アナウンス	8:55 アナウンス
14:00 開会式/アナウンス	9:00 講義5	9:00 講義13	9:00 講義20
14:20 講義1	9:50 講義6	9:50 講義14	9:50 講義21
15:10 講義2	10:40 コーヒーブレイク	11:00 講義15	10:40 講義22
16:00 コーヒーブレイク	10:55 講義7	11:30 遠足＆昼食	11:30 閉会
16:20 講義3	11:45 講義8	15:30 講義16	12:15 送迎バス出発
17:10 講義4	12:35 写真撮影・昼食	16:20 講義17	
18:00 チェックイン/自由時間	14:00 講義9	17:10 コーヒーブレイク	
19:00 ウエルカムパーティー	14:50 講義10	17:30 講義18	
21:00 フリーディスカッション	15:40 コーヒーブレイク	18:20 講義19	
	16:00 講義11	19:30 フェアウェルパーティー	
	16:50 講義12	21:30 フリーディスカッション	
	17:40 アナウンス		
	18:00 夕食/ポスターセッション		
	19:50 免疫学者を囲む会		
	21:00 フリーディスカッション		

■成果

4日間のサマースクールの中で、岸本先生や審査官など教科書で見るような先生方や、インパクトのある論文を出し続けている著名な先生方のご講義を聞くことで、論文や本などの文面からだけでは感じ取ることのできない苦労や発見に繋がった経緯まで知ることができ、自分自身の今後の研究において、岐路に立ったときにどのように考えるべきかを学ぶことができ、大変勉強になりました。

また、パーティなどでは、先生方と直接お話しする機会をいただき、先生方の人生の中で転機となった話や研究についてのアドバイスなどについてもお聞きすることができ、どのような環境でどのように考えて行動す

ることで、現在までの成果をあげる事ができたか、お聞きすることができ、大変勉強になりました。

また、同年代の研究者や医師と交流する機会もたくさんあり、同じような悩みやモチベーションをもつ方々と意見交換をすることができ、今後の研究活動において、大切な繋がりを持つことができました。

■今後の抱負

サマースクールを通して、研究に対するモチベーションが高まり、夏休み明けの3年の後期の基礎配属から、さらに研究活動に邁進したいと思います。

■謝辞

免疫サマースクールに参加するに当たって、岸本国際交流奨学金をご提供いただき、サマースクールではご講義いただいた岸本忠三先生、並びに奨学金のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 5 年

学籍番号***** 氏名:T・Y

【概要】

2023 年 10 月 12 日(木)～10 月 13 日(金)の日程で、Human Genetics Asia 2023 に参加し、ポスター発表を行った。Human Genetics Asia 2023 は第 68 回日本人類遺伝学会大会、第 14 回アジアパシフィック人類遺伝学会 (APCHG)、第 22 回東アジア人類遺伝学会連合 (EAUHGS) の合同大会であり、All Asia をテーマに海外からの参加者を迎えて数千人規模で開催された。

【発表内容・成果】

近年、ヒトのゲノム、トランスクリプトーム、プロテオームといった様々なオミクスデータが公共データベースを通じて公開・共有されている。これらのオミクスデータを統合的に解析することで、疾患メカニズムの解明に繋げられる可能性がある。しかし、これらの公共データベースは欧米人由来のデータに偏っていることから、日本人を含む東アジア人のオミクスデータを集約して公開・共有する必要がある。そのため、私たちは「JOB : Japan Omics Browser」を開発し、誰でもウェブ上で簡単に日本人のオミクスデータにアクセスし、解析できるようにした。本学会では、JOB の基本的な使用方法や統合オミクス解析の実例を紹介した。

ポスター発表は当日の朝からポスターが掲示され、参加者が自由に閲覧できた。その後、夕方から 30 分間のフリーディスカッション形式で発表が行われた。当日は遺伝学の研究者のみならず、遺伝カウンセラー、歯科臨床医など、様々なバックグラウンドの方々に关心を持っていただいた。合計で 20 名超の方にアクセスをしていただき、説明時間が不足するなどの課題もあったが、今回の発表目的を十分に達成することができた。

【謝辞】

今回の活動において、ご支援いただいた岸本忠三先生、研究をご指導いただいた岡田隨象先生、王青波先生、MD 研究者育成プログラム関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3年

***** N・M

この度、岸本国際交流奨学金により西日本医学生学術フォーラム 2023 に参加しましたので、ご報告申し上げます。

活動の期間：2023年12月2日（1日間）

活動の概要：第8回西日本医学生学術フォーラム 2023 でのポスター発表および口演聴講

活動の内容：MD 研究者育成プログラムで参加させていただいている遺伝子治療学講座で現在取り組んでいる研究について、「遺伝子発現のバランスをとる生物学的補償機構の探索」という題でポスター発表を行った。また、他の参加学生による口演発表を聴講した。

活動の成果：発表に関して多くの方から質問やコメントをいただき、今後研究を進めるうえでの新たな視点を得ることができた。また、自分と同じように研究をしている医学部生と意見交換を行うことができ、新たな知見や研究へのモチベーションを得ることができた。今回得たことを踏まえ、さらに研究を進めていきたい。

謝辞

最後になりましたが、フォーラム参加を支援してくださった岸本忠三先生、研究において指導してくださった二村圭祐先生をはじめ遺伝子治療学講座の皆様、フォーラムの開催に尽力してくださった皆様に深く感謝申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3 年

***** A · R

1.活動名

西日本医学生学術フォーラム

2.活動期間

2023 年 12 月 2 日 12:00-18:30

3.活動場所

熊本県医師会館

4.活動内容

口頭発表 14 名 (現地参加 13 名、オンライン参加 1 名)

ポスター発表 29 名

特別講演対談プログラム

「研究医一本」×「臨床医&研究医」

熊本大学熊本大学大学院生命科学研究部 加齢医学寄附講座 永芳友先生

東京大学国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構 守本祐一先生

熊本大学大学院生命科学研究部分子薬理学教授 諸石寿朗先生

表彰式

5.活動の成果

今回、医学生学術フォーラムに参加させていただきましたにあたり、私は自分自身に 2 つの目標を課して参加いたしました。1 つは、環境医学や公衆衛生学といった社会医学に興味を持っている医学生との交流を深めるということ、そして 2 つ目に、他の分野、特に臨床に近い分野の研究について、どのような研究をされている方がいるのかを学ぶということでした。

まず一つ目の、社会医学に興味を持つ医学生との交流という点において、以前同じように参加させていただいた神戸大学リトリートでは、公衆衛生学などの社会医学を志す他大学の学生の方がおらず、疎外感を感じておりましたが、今回のフォーラムでは奈良県立医科大学の方がレセプトデータベースを利用した研究のポスター発表を行っておられ、他にも公衆衛生学教室に所属されている方とお話しすることができ、同じ分野を志す同年代

の医学生と知り合えるという貴重な機会となりました。

次に、他の分野の研究についても学ばせていただくという点では、口頭発表、ポスター発表とともに興味深い発表が多く、勉強になりました。特に、心収縮力の低下しない心不全のモデルマウスについてのご発表や、関節リウマチの病態形成に関わる免疫機構についてのご発表など、私の持つ基礎医学の知識でも十分に理解することのできる内容もあり、他の研究領域での研究についても学ぶことができました。

6.今後の抱負

今回このようなフォーラムに参加させていただき、同じ分野を志す医学生と出会うことができたことは、今後の研究活動の一つのモチベーションにさせていただけるかと思っております。また、分野を問わず他の大学の学生の方と多く交流をすることができました。また来年以降このようなフォーラムに参加して再会した際に自身の研究活動の成果を報告できるよう、自分自身の研究活動、そして日頃の講義などを通しての医学の勉強に、より力を入れていきたいと思います。

また、今回私は他の医学生の方の多くの発表を興味深く聞かせていただきましたが、中には知識や経験不足がゆえに、内容を理解することが難しい発表もあり、そのような発表に対しても理解し、質問されている方を目の当たりにして、刺激を受けることができました。次の機会にはこのようなご発表についても理解することができるよう、精進していきたいと思っております。

7.謝辞

最後になりましたが、西日本医学生学術フォーラムに参加させていただくにあたり、ご支援いただきました岸本忠三先生をはじめとされます皆様には、貴重な学びの機会をいただき、多大なるご支援もいただきまして、深く感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3年

学籍番号***** 氏名 K・K

【活動の期間】

2023年12月2日(土)～2023年12月3日(日)

【概要】

熊本にて行われた西日本医学生学術フォーラムに参加しました。

【内容】

熊本医師会館で行われた医学生の研究発表や学生企画及び懇親会に参加しました。具体的には次の通りです。

12月2日(土)

12:00-12:10 開会式

12:10-15:20 口頭発表

15:35-16:55 ポスター発表

17:10-18:00 特別講演対談プログラム

18:10-18:25 閉会式・記念撮影

19:15-20:45 懇談会

12月3日(日)

新幹線にて帰阪

【成果】

医学生主体にて行われた西日本医学生学術フォーラムに参加し、西日本の他大学で学生が行っている医学研究に触れることで多くの知識を得ることができました。課外活動として研究に打ち込む医学生たちとの交流や、同期が口頭発表で優秀賞を受け取っていた様子から、自身もこれからの大学生活においてより一層研究に精を出さねばという意識が芽生えました。そして、対談プログラムを通してこれからの自身のキャリアを考える良い機会を得ることができました。

また、医学生仲間との積極的な交流を通じて経験や知見を共有することで将来の研究活動において役立つ情報を得ることができました。この経験は、今後の研究を続けていく上で非常に有益であると感じています。さらに、オンラインでアカデミックな交流がどのように進行するのかを実感することができました。これは将来自身が研究成果を発表する場面において、適切な学術コミュニケーションを築く上で良い経験となつたと感じています。

す。今回のフォーラムを通して学際的な議論や専門的な知識の共有が研究者として成長する上で欠かせない要素であることを改めて認識することができました。

【今後の抱負】

今回の学術フォーラムを通して、自身の研究活動において一歩踏み込んだ成果を発表できるようなスキルと知識を身につけたいと強く感じました。これを達成するために学内外での研究機会を最大限に活用し、研究の深化と成果の向上に努めています。将来的には、同様の学会や研究交流の場で自らの研究を発表して他の学生に劣らないような成果を上げたいと強く感じました。

【謝辞】

この度は貴重な機会を与えていただき誠にありがとうございました。この場を借りて岸本先生や佐田先生をはじめ、協力していただいた多くの方々に感謝の言葉を申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

– MD 研究者育成支援事業 –

医学部医学科 3年

***** T・H

■概要

学会名: 西日本医学生学術フォーラム

日程: 2023年12月2日（土）

会場: 熊本県医師会館

■目的

西日本医学生学術フォーラムは、研究志向のある医学生が熱意ある指導教員とともに集い、日頃の研究成果を紹介し、ディスカッションし、親交を深める研究集会である。本フォーラムへの参加により、研究への意欲と能力を高め、研究マインドを有する志高い臨床医、研究医となることを目的とする。

■スケジュール

12:00～12:10 開会式

12:10～15:20 口頭発表

15:35～16:55 ポスター発表

17:10～18:00 特別講演対談プログラム

18:10～18:25 閉会式

19:15～20:45 懇談会

■成果

西日本医学生学術フォーラムの中で、口頭発表、ポスター発表、特別講演対談プログラム、そして懇談会まで参加し、特に、口頭発表では様々な医学分野からの研究が発表され、異なる分野の研究についても学ぶことができました。

また、懇親会では、同年代の異なる専門分野から来た医学生と交流する機会もたくさんあり、新たな知識を得るだけでなく、同じような悩みやモチベーションをもつ方々と意見交換をすることができ、今後の研究活動において、大切な繋がりを持つことができました。

このような会への参加は、将来の研究者としての視野を広げ、同時に共に成長できる仲間を見つける重要な場であったと実感しています。特に、他の医学生たちとの交流が大変有意義であり、今後も継続的なネットワークを築いて成長していきたいと思いました。

■今後の抱負

西日本医学生学術フォーラムを通して、研究に対するモチベーションが高まり、今後もさらに研究活動に邁進したいと思います。

■謝辞

西日本医学生学術フォーラムに参加するに当たって、岸本国際交流奨学金をご提供いただいた岸本忠三先生、並びに財団のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

令和5年度岸本国際交流奨学金による活動実施報告書

— MD 研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3 年

学籍番号 ***** 氏名 N・I

2023年12月2日に熊本県にて行われた「西日本医学生学術フォーラム 2023」に参加し、
口頭発表とポスター発表を行いました。

【活動のスケジュール】

令和5年12月2日(土)

時間	場所	内容
12:00-12:10	熊本県医師会館	開会式
12:10-15:20		口頭発表
15:35-16:55		ポスター発表
17:10-18:00		特別講演対談プログラム
18:10-18:25		表彰式・閉会式

【受賞】

口頭発表部門 学生投票最優秀賞

【内容・成果】

本フォーラムでは自身初となる口頭発表・ポスター発表を行い、今後の研究活動を進めていく上で非常に良い機会となりました。また、口頭発表部門においては学生投票最優秀賞を頂くことができ、今後のモチベーション維持の機会にもなりました。研究に取り組んでいる医学生の幅広い分野の研究発表を聴くことができ、一層努力を進めていきたいという思いが強まりました。学内では研究に取り組んでいる同級生が多くはいないため、なかなか困難を共有できる仲間がいなかったり、研究の話ができる人が少なかつたりといったことに辛さを感じることが多かったため、西日本の他大学の学生と交流を深めることができ、仲間を増やすことができたことが何より嬉しかったです。

特別講演対談プログラムでは、岡山大学出身で現在東京大学 IRCCN において研究に従事されている研究医一本の方と、熊本大学出身で腎臓内科において臨床と研究の二刀流に従事されている方のお話を聞くことができました。自分自身将来の研究に対するキャリアに悩みを抱いているところでしたので、臨床と並行している方と研究一本の方のお話を聞き、それぞれの良さを知ることができたため、今後の進路を決める上で大変参考になりました。

【今後の抱負】

大阪大学や熊本大学ほど医学生の研究が盛んでない大学から単身で参加されている学生さんなど、高い志を持って取り組んでおられる方の内容を拝聴することにより、一層頑張らなければ意を固くするに至りました。今後も、学業と並行しつつ継続して意欲的に研究に取り組んでいきたいと考えております。

【謝辞】

今回のフォーラムに参加するにあたり、研究内容・発表内容に関して指導いただきました依藤依代先生、山下俊英先生、岸本国際交流奨学金として資金援助をしてくださった岸本忠三先生、並びに引率・サポートをしていただいた佐田遼太先生をはじめとする医学科教育センターの皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年度岸本
国際交流奨学金による活動実施報告書
— MD研究者育成支援事業 —

医学部医学科 3年
学籍番号 ***** 氏名 N・I

2024年3月8日,9日に愛知県名古屋市にて行われた「第17回神経発生討論会・第20回成体脳のニューロン新生懇談会 合同大会」に参加し、口頭発表を行いました。

【活動のスケジュール】

令和6年3月8日(金)

時間	場所	内容
15:00-15:05	名古屋市立大学	開会式
15:05-18:20		口頭発表
20:00-22:00		意見交換会

令和6年3月9日(土)

時間	場所	内容
9:00-10:40	名古屋市立大学	口頭発表
10:40-12:00		ポスター発表
13:00-14:00		特別講演
14:00-15:00		招待講演
15:10-16:40		口頭発表

新幹線遅延により当初の予定より2時間遅れました。

【内容・成果】

本学会では、専門的な研究者に自分の研究を見ていただく始めての機会となり、今後の研究計画を立てていく上で非常に良い機会となりました。また、以前に在籍していた研究室の方々も参加しており、同様に貴重な意見をいただくことができました。

非常に成熟した研究者の中で発表するのは非常に気が引き締まりましたが、なかなか専門の研究者の方にアドバイスを頂く機会が少ないので大変参考になる学会発表となりました。似たような研究をしている若手研究者とも親睦を深めることができ、大変良い機会となりました。

【今後の抱負】

学部生の発表もあり、自分よりも何倍も素晴らしい研究をしていることに刺激を受け、一層努力しなければと気が引き締まりました。今後も、学業と並行しつつ継続して意欲的に研究に取り組んでいきたいと考えております。

【謝辞】

今回の学会に参加するにあたり、研究内容・発表内容に関して指導いただきました依藤依代先生、山下俊英先生、岸本国際交流奨学金として資金援助をしてくださった岸本忠三先生、並びに医学科教育センターの皆様に心より感謝申し上げます。